

# 2022 徳力富吉郎特別展

主催／(株)伊勢福 協力／(株)赤福

# 俳画に挑む



『大根稲架 齋王宮趾に高く組む』 松本瑠璃



『五十鈴川紅葉沈めて 透き通る』 久野哲男

昭和60年、週刊新潮、週刊文春に赤福の広告とともに俳句と俳画の掲載が始まりました。この掲載がきっかけとなり、多くの方々が俳句と出会い、この地域に俳句の文化が大きく根付いていきました。  
この時に俳句の監修を山口誓子(当時82歳)、俳画を描いたのが徳力富吉郎(当時83歳)でした。徳力富吉郎は版画の世界から、俳画という新しいジャンルに挑みました。軽やかな筆遣いで描かれた富吉郎の俳画の世界をお楽しみください。



伊勢内宮前

おかげ横丁



令和4年  
11月12日(土)～12月4日(日)

午前10時～午後5時 入場無料  
おかげ横丁 徳力富吉郎版画館



